opusdei.org

神の母であり、私た ちの母である聖マリ ア

J. エチェバリーア著、 Itinerario de vida cristiana、 第四章からの抜粋。

2009/09/04

聖母の生涯を見ると、聖ホセマリアが書いているように、聖性と偉大さを「仰々しい行いに現わす必要はなく、かえって隠れて目立たず沈黙のうちに捧げられる日々の犠牲に現わすべきであることを教わります。

(・・・) 神的になる、つまり神化されるには、すこぶる人間的になることから始め、神を見ながら普通の人間としての生活を営み、一見したとてろ些細で平凡なことがらを聖化するとなのです。マリアはこのような生き方をしました。よろこびであることが、天使たちと諸聖人の上に位する聖母の生き方だったのです。

ことは、誰にもできることなので す。

この目標に達するためには、自らの 行いを神に関係つけるための努力が 必要です。万一あるとき、目標の高 さを見て臆病風に吹かれたなら、お とめマリアの忠実な応え方を眺めま しょう。元気が湧いてくることで しょう。同時に、マリアの生き方の 証だけでなく、聖母ご自身が私たち の手の中にある宝物であることを忘 れないようにしましょう。聖母は天 において御子と共に治めておられま す。私たちが助けを求めるなら、い つでも母親としての保護と愛情を注 いでくださいます。名前を呼び掛け 始めるなら、多くの場合は、お願い する前から、助けの手を差し伸べて くださいます。ただ、聖母の効果的 で愛深い保護に気付かないことが信 じられないくらい多いことを知って おきましょう。

御子の道は十字架の道ですが、それ と同じく聖母マリアの歩む道は、十 字架を避けて通りません。救いをも たらす十字架の豊かな意味、信仰と 愛をもって受け入れる苦しみの意義 は、キリスト者としての召し出しの 本質に深く根を下ろしています。だ から、それが聖母において顕著な特 徴となったのです。 聖母マリアの心 は、老シメオンが預言したように、 剣に貫かれたのでした。十字架を恐 れるべきではありません。マリアを 眺め、マリアにつき従うなら、イエ スの贖いをもたらす愛を信じて自ら を忘れることにこそ、よろこびのあ ることが分かるのです。カルワリオ の御子の傍らで、最高のかたちで発 揮されたマリアの母性は、私たちが 聖母に付き添い、マリアを母として 受け入れ、世界の救いのためになさ れたマリアの献身に参加するよう励 ましています。それはわたしたち全 員に向けられた強く、また思いやり のある招きです。

十字架のこの豊かさは、次のような 事柄の中に見つけることができま す。人々に対する日々の理解と寛大 な態度、家庭や什事や社会において 人々と共に生活を営むにあたり辛く ても努力する数々の小さな奉仕の心 の現われ、いつもの仕事の中で見つ け、そして愛する僧いと犠牲、喜び にあふれた単純な節制の模範、聖な る純潔・貞潔を愛する心、全ての人 の苦しみや窮乏との連帯、特に弱者 との連帯の精神、罪のあらゆる機会 を避け、誘惑から逃げる戦い、ゆる しの秘跡を受けて改心することに よって迅速に神のもとに立ち返る努 力。ヨハネ・パウロ2世が指摘され たように、御父のもとに立ち返るた め、そして罪の痛悔に始まり、神の 子としての自覚からくる喜びへと、 **導かれるための特別な光であり助け** 手です。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/kamino-haha-de-ari/ (2025/12/06)